

大学英語教育学会（JACET）中部支部 2015 年度春季定例研究会プログラム

日時： 2016 年 2 月 20 日(土) 14 時 00 分～17 時 55 分

会場： 名城大学天白キャンパス 共通講義棟東 H202 教室 名古屋市天白区塩釜口 1-501

※地下鉄鶴舞線「塩釜口・名城大学前」駅下車、1 番出口(右)徒歩約 4 分

開会挨拶 14 時 00 分～14 時 05 分 支部長 大森裕實(愛知県立大学)

研究会研究発表 14 時 05 分～15 時 05 分

【待遇表現研究会】英語会話に求められる聞き手としての振る舞い

—会話データの分析と会話指導へのヒント—

津田早苗(東海学園大学名誉教授)

大谷麻美(京都女子大学)

岩田祐子(国際基督教大学)

重光由加(東京工芸大学)

研究発表1 15 時 05 分～15 時 35 分 司会 Leah Gilner(文京学院大学)

Does English for liberal education have to mean general English?

Mark Rebuck (名城大学)

研究発表2 15 時 35 分～16 時 05 分 司会 石川有香(名古屋工業大学)

「逆 C テスト」の可能性: 文法・語法と Writing との関連を中心に

木下徹(名古屋大学)

休憩 16 時 05 分～16 時 20 分

研究発表3 16 時 20 分～16 時 50 分 司会 北尾泰幸(愛知大学)

英語・日本語における母音の学習についての音響音声学的な考察

清水克正(名古屋学院大学名誉教授)

特別研究発表 16 時 50 分～17 時 50 分 司会 鈴木達也(南山大学)

談話における空間表象が示すもの—ことばを超えた包括的分析へ—

片岡邦好(愛知大学)

閉会挨拶 17 時 50 分～17 時 55 分 副支部長 鈴木達也(南山大学)

懇親会 18 時 15 分～ HONG HA (ホンハ)

発表概要

研究会研究発表(待遇表現研究会)

14 時 05 分～15 時 05 分

英語会話に求められる聞き手としての振る舞い—会話データの分析と会話指導へのヒント—

津田早苗 (東海学園大学名誉教授)

大谷麻美 (京都女子大学)

岩田祐子 (国際基督教大学)

重光由加 (東京工芸大学)

日本人英語学習者が英語母語話者と会話をする際、会話にうまく参加することや話題をうまく膨らませることができず、気まずい沈黙や間が生じてしまうことがよくある。またそのため、話題そのものに関心がない、会話を楽しんでいないと英語母語話者から誤解を受けることもある。これは、日本人英語学習者の英語の能力が不足しているからだけではなく、日本語と英語の会話のスタイルが異なること、またその事実日本人英語学習者が気づいていないことにも原因があると思われる。本発表では、どのように話題を膨らませて会話を継続させるのかという「話題展開のスタイル」を、談話分析の手法を用いて日本語と英語で比較し、その類似点と相違点を明らかにする。特に、日本人英語学習者が置かれがちな「聞き手」としての立場に着目し、1. 聞き手の行動と話題の展開スタイルの特徴 2. 聞き手の行動がもたらす話題の展開や自己開示の大きさを分析する。そして、英語会話では、聞き手の振る舞いがどのように日本語のそれと異なるのかを示す。分析から、日本語会話に比べて英語会話の聞き手は、単に相手の話を聞くだけでなく、話題を膨らませ継続させるためにより積極的に会話に関与をしていることが明らかとなった。この結果を受け、英語会話指導でどのように聞き手としての振る舞い方を指導することができるのかを考察する。

研究発表 1

15 時 05 分～15 時 35 分

Does English for liberal education have to mean general English?

Mark Rebuck (名城大学)

Students studying specialized disciplines are usually provided with ESP classes. Designed to meet students' specific needs, such classes focus on subject-relevant content. In most Japanese universities, ESP courses commence in the second year. During the first-year, however, English classes are provided as part of *kyoyo kyoiku* (教養教育), or liberal education. The *kyoyo kyoiku eigo* (KKE)—English classes for liberal education—tend to be based on general content. Yet it could be argued that liberal education should also be tailored to students' particular academic and career needs. This presentation reports on a study into pharmacy students' preferences for KKE. Students chose their ideal reading class, with the four classes differing in their “content mix” as follows: 1) Wholly EGP (English for general purposes) 2) EGP with limited ESP 3) Wholly ESP 4) ESP with limited EGP. It was found that over 80 per cent of students chose either 3 or 4 above. This presentation reports on why students desired a greater ESP emphasis and considers the objections of those who expressed a preference for more general content. Also considered are the views of KKE teachers, gathered from interviews, on the EGP-ESP debate.

研究発表 2

15 時 35 分～16 時 05 分

「逆Cテスト」の可能性: 文法・語法とWritingとの関連を中心に

木下徹(名古屋大学)

C-test は、(クローズテストから派生したと言われ) 対象となる文章を、2 語に 1 語の割合で、単語の後半を空白にして、それを文脈に基づいて完成させるテストであり、本発表でいう「逆 C-test」とは通常とは逆に、単語の前半を空白にしたものである。

C-test は、作成と実施が比較的容易なため、現在も、主に簡単な熟達度測定等に、大学の英語や他の外国語教育でも、ある程度広く使用されている(e.g. Mozgalina & Ryshina-Pankova, 2015)。一方で、その信頼性や妥当性には種々の議論があり、近年では相当大規模なサンプルと項目反応理論による、各項目、及びテ

スト全体の信頼性や適合度の研究も見られる(e.g.Lee-Ellis, 2009; Eckes & Baghaei, 2015)。

この様なC-testの基本原理の1つは、比較的上級の学習者でも母語話者との差が生じやすいとされるノイズに対する耐性といわれる。この点を考慮し、本研究は、約40名の大学レベルの日本人英語学習者の協力による結果に基づき、C-testが測定しているもの、並びにC-testの代替案としての「逆C-test(仮称)」の可能性に関して考察する。主として、通常のC-testと逆C-testの相関、両Cテストとマクロ的視点からみたEssay Writing、及び、文法・語法に焦点を当てたミクロ的視点での評価との相関を中心に検討を加える。

研究発表3

16時20分～16時50分

英語・日本語における母音の学習についての音響音声学的な考察

清水克正(名古屋学院大学名誉教授)

本発表は、米人と日本人によるそれぞれの言語の母音の学習に関するものであり、音響音声学的な考察を加えたものである。母音の音響音声学的な研究は今までに数多く行われているが、学習面での音響音声学的な考察は相対的に少ない。本研究では、日本人学習者が英語母音を習得する場合と米人学習者が日本語母音を習得する場合の二つのケースについて調査した。

本研究への参加者は米人4名、日本人5名の学習者であり、それぞれの母語と学習する言語の母音について音響分析を行った。それぞれの発話した母音について、フォルマント周波数を測定し、母語と学習言語との比較を行った。この結果、2言語の学習者は母語に近似する母音でもって学習言語の母音を発音しているが、日本人が重複的、米人は選択的に行っていることが明らかになった。第二言語の音声学習理論としては、知覚的に類似する母音への同化でもって説明することができるが、日本人学習者の場合は発話上弁別ができていないという問題を呈する。こうした問題を克服するためには、母音の音響音声学的な特徴について明確に指示し、フォームフォーカスの方法でもって指導・訓練を行うことが求められる。

特別研究発表

16時50分～17時50分

談話における空間表象が示すもの—ことばを超えた包括的分析へ—

片岡邦好(愛知大学)

空間概念の言語学的分析が表舞台に立って久しい(Fillmore 1971; Langacker 1982; 松本・田中 1997)。そこでは前置詞や移動動詞が喚起する位相的な(topological)スキーマ概念の分析に始まり、ユークリッド的な座標軸にもとづく(configurational)空間語彙の類型論的な対照へとその射程を広げてきた(Hill 1982; Levinson 1996, 2003)。本発表では、後者の空間語彙の日常的使用に焦点を当て、道案内や経路描写という言語活動における日本語(及び英語)の空間描写を検討し、そこに見られる普遍性と特殊性について考えたい。そこで、商業看板における経路描写という静的な表現を端緒として(Kataoka 2005)、二者会話における相互行為的な道案内(Kataoka 2014)、そして最後に、日・英語の「語り」中に出現した言語と非言語による空間描写の分析から(片岡 印刷中)、日・英語における視点取りの特徴を明らかにしようと努める。一連の考察を通じて、空間概念は日常活動の中で常に心身(環境に即した言葉とジェスチャーなど)を通じて表出され、人間に共通する認知的資源であると同時に、各々の言語コミュニティで共有される固有の志向性を示すことを述べる。

懇親会のご案内

「HONG HA (ホンハ)」にて、懇親会を行います。会費は4,500円を予定しております。準備の都合上、参加ご希望の方は2月18日(木曜日)までに、JACET 中部ホームページよりお申し込みください。情報交換・意見の場として、多くの方々のご参加をお待ちしております。なお、当日のキャンセルはご容赦ください。

事務局からのお知らせ

- ☆ 駐車場はございませんので公共交通機関をご利用下さい。
- ☆ 当日、第9回中部支部役員会(12:30~13:30)を行います。役員は同会場 H205 にご参集下さい。

会場アクセス

名古屋市天白区塩釜口 1-501

地下鉄鶴舞線「塩釜口・名城大学前」駅下車、1番出口(右)徒歩約4分



定例研究会に関するお問い合わせは、JACET 中部支部事務局までお願いします。

支部事務局:名古屋外国語大学 佐藤雄大研究室内

t-sato@nufs.ac.jp